

自閉スペクトラム症 (ASD) の M-CHAT 第2段階スクリーニングにおける質問

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：1歳6か月健診，自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (ASD)，
M-CHAT R/F，高識別力6項目，第2段階スクリーニング

要 旨

1歳6か月健診では自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (ASD) のスクリーニングに M-CHAT の使用が推奨されているが，現状は，多くで一部の項目が採用されている。また，M-CHAT は正式には不通過児に対してマニュアル化された第2段階スクリーニングの面接を行うが実践は難しい。しかし，面接内容の理解は，質問の真の狙いを明らかにし，健診や日常診療の場で，補足質問をして偽陽性を減らす際の一助になる。Kamio らの高識別力6項目について，M-CHAT と M-CHAT R (Revised) の第1段階質問を併記し後者が簡明になったことを示し，M-CHAT R/F (Follow-up) の面接内容を翻訳した。ただし，M-CHAT R/F は全20項目の使用を原則とし，一部項目のセット使用は不可としている。

はじめに

1歳6か月健診において自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害 (autism spectrum disorder; ASD) のスクリーニングのために厚労省は M-CHAT (the Modified Checklist for Autism in Toddlers) を推奨している。しかし，23項目からなる本質問票を全て取り入れることは難しい場合が多く，普通は Kamio らの重要10項目を用

いるか¹⁾，一部を健診時の問診に取り入れている²⁾。

さらに M-CHAT は偽陽性を減らす目的で不通過項目についてシステム化された面接を直接か電話により行い成立するが，現状では難しく，総務省の調査で ASD リスク児が平均で14.2%，多い自治体で37%や48%も出る一因になっている²⁾。これらが専門機関受診となつては，待機時間の延長に拍車が掛かる。

次善の策として識別力の高い重要項目だけでも面接時の質問を心得ておき，健診の際に適宜，引き出す。保健師が不通過をチェックし臨床心理士が担当することも考えられる。日常診療の際に応

Nobuo IZUMI

出雲市

連絡先：〒693-0021 島根県出雲市塩冶町909-3

出雲市